

## 1. 世界アンチ・ドーピング機構(WADA)関連の会議

# WORLD CONFERENCE ON DOPING IN SPORT



### 2025年12月 韓国・釜山 World Conference on Doping in Sport

世界各国の政府機関、各国アンチ・ドーピング機関（NADO）、国際競技団体、研究者など多様な関係者等総勢約1,500名が参加しました。

開会式では、WADA会長、ホスト国である韓国の文化体育観光部長官、IOC会長等が登壇しました。WADAのウィトルド・バンカ会長は「アンチ・ドーピング活動は単なる公正性の確保にとどまらず、人間性、誠実さ、尊厳を守るものであり、世界のどの国・組織も互いに対等な立場で取り組むべき共通の使命である」と述べました。スポーツ庁室伏参与は、WADA理事会・執行委員会に参画する政府代表会議（One Voice）の議長として、「世界会議がスポーツの未来を方向付ける重要な場であり、スポーツは人類共通の文化である」と強調したうえで、アンチ・ドーピングは、教育と健全な社会を支える基盤であり、政府もスポーツ団体と共に共同責任を負うことを改めて示しました。さらに、「ドーピングは自己の可能性を否定し、スポーツの価値を損なう行為である」とし、「スポーツは未来世代への贈り物である以上、共に守り抜くべきである」と呼びかけました。

本会議では、2027年版世界アンチ・ドーピング規程および国際基準の主な改定、また、アスリートの権利を明確にした「Athletes' Anti-Doping Act(アンチ・ドーピングにおけるアスリートの権利宣言)」の改定について共有がなされました。その後、WADA理事会・執行委員会においてこれらの文書が正式に決議され、2027年1月から施行されることが確定しました。2026年には改定内容の理解促進と導入支援を目的とした地域別シンポジウムが開催される等、2027年施行に向けた様々な対応が準備されることが示されました。

これらを踏まえ、会議の主要成果として「Busan Declaration (釜山宣言)」が採択されました。宣言では、国際協力の強化、教育の拡充、調査能力の向上、科学・技術への投資や資源配分の見直し、アスリート中心の制度設計などを実効的に運用するための方向性が示されました。



Photo: WADA

# WADA ANNUAL SYMPOSIUM

# INADO ANNUAL WORKSHOP

# WADA I&I PROJECT (GAIIN) WORKSHOP

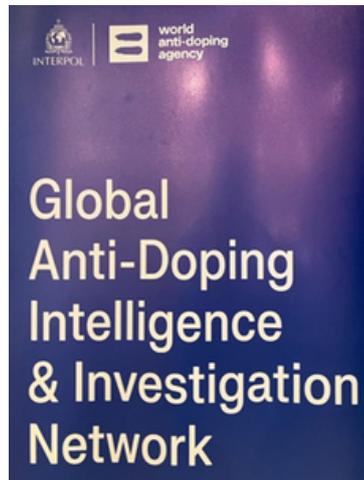


## 2025年3月 スイス・ローザンヌ WADA Annual Symposium / iNADO Annual Workshop

WADAの年次シンポジウムと、NADOによる国際的な会員組織であるiNADO (Institute of National Anti-Doping Organisations) の年次ワークショップが開催されました。

WADAのシンポジウムでは、「Going Further Together (共にさらに進む)」をテーマに、アンチ・ドーピングシステムの一層の強化や、汚染(コンタミネーション)問題への対応、教育活動の深化、2027年の世界アンチ・ドーピング規程改定へのプロセスなどについて情報共有が行われました。パートナーシップに関するセッションでは、JADAの職員が、アジア・オセアニア地域におけるNADO支援の取り組みを報告しました。

iNADOワークショップでは、AIを活用したアンチ・ドーピング活動の可能性、各国における教育活動の実践、アスリートの声をアンチ・ドーピング機関の意思決定プロセスに反映させるための取組み、サプリメントに関連するリスク等、世界各国のNADOの経験・知見が参加者に共有されました。



## 2025年11月 タイ・バンコク WADA I&I Project (GAIIN) Workshop

本会議は、アジア地域で4回に分けて実施されたセッションの最終回で、複数国のNADOおよび法執行機関が参加しました。インターポールからも出席があり、情報交換を通じて税関や関連機関との連携可能性について有益な示唆が得られました。

本会議の目的は、NADO職員のアンチ・ドーピング調査能力の向上及び法執行機関との連携強化であったため、各国NADOの職員と併せて、法執行機関の職員の参加が求められました。ワークショップでは、インタビュー手法やオープンソース情報収集の実践的手法を学び、講義と演習を通じて国際的なアンチ・ドーピング関連情報収集・調査の知見を深める機会となりました。

## 2. アンチ・ドーピング機関等の会議

### INTERNATIONAL ANTI-DOPING LEADERS FOR ANNUAL EDUCATION SUMMIT



#### 2025年5月 アメリカ・コロラドスプリングズ International Anti-Doping Leaders for Annual Education Summit

米国NADO(USADA: United States Anti-Doping Agency)が主催する、アンチ・ドーピングの教育に関する会議が開催され、各国の教育ディレクターが集まり、クリーンスポーツ教育の実践例や課題、最新動向について意見交換がなされました。教育に関する国際基準(ISE)の改定に関する議論や、パリ2024オリンピック・パラリンピックの教育活動の振り返り、次回大会に向けた取り組みが共有されました。

各国の教育プログラムやアクティビティの紹介もあり、参加者は実際に体験しながら意見交換を行いました。また、教育データの活用や検査前教育の効果検証など、実務に直結する情報も共有されました。

全体を通じて、各国の教育部門ディレクターが積極的に議論し、協力関係を強化する場となり、国際的な教育活動の発展に向けた有意義な機会となりました。

### ASEAN SPORTS INTEGRITY AND ANTI-DOPING SYMPOSIUM



#### 2025年10月 マレーシア・ラブアン ASEAN Sports Integrity and Anti-Doping Symposium

本シンポジウムでは、スポーツにおけるインテグリティ強化とアンチ・ドーピングの国際的枠組みをテーマに議論が行われました。オーストラリアからは、国内の複数のスポーツインテグリティ関連機関を統合して設立された、Sport Integrity Australiaによる取り組みが紹介され、シンガポールからはセーフスポーツ推進における多機関連携の重要性が共有されました。

また、2027年版世界アンチ・ドーピング規程の改定ポイントとして、政府の関与やNADOの独立性強化、教育者資格要件が説明されました。教育分野では、規則ベースから価値観に基づく教育への移行や2027年版のISEについて議論がなされました。

さらに、アジアサッカー連盟による不正な試合操作の予防・検出戦略や「Recognize, Reject, Report」のメッセージが強調され、パネルディスカッションでは汚職防止のための法制度整備についても意見交換が行われました。

# THE 24TH ANNUAL USADA SYMPOSIUM ON ANTI-DOPING SCIENCE



## 2025年9月 アメリカ・アトランタ The 24th Annual USADA Symposium on Anti-Doping Science

USADAが主催するアンチ・ドーピング科学および分析研究の会議が開催され、JADAの役職員及び当機構ドーピング検査技術研究開発事業の関係者が参加しました。

本会議は、各国のアンチ・ドーピング機関とWADA認定分析機関等の科学分野の専門家を対象とし、アンチ・ドーピング科学の分野を代表する国際会議として、最新の科学的知見と国際的課題について議論をする会議です。

本年は「Closing the Gap Between Doping Prevalence and Detection」をテーマに、新たな切り口として、アスリートを対象とした心理調査報告や、実際のドーピング検査結果等をもとに解析した社会科学的なアプローチによるアンチ・ドーピング研究報告をはじめ、従来からの分析技術や最新のドーピング検査技術に有用な科学研究報告の両面に焦点をあてた議論が交わされました。

# KADA SEMINAR



## 2025年12月 韓国・釜山 KADA Seminar

韓国NADO(KADA : Korea Anti Doping Agency)主催のセミナーが開催され、JADAから役職員が参加しました。KADAがWorld Conferenceの開催国となった際に公約としていた国際貢献活動の成果が発表されるとともに、複数のNADOによる国際活動が共有されました。

また、アンチ・ドーピングにおける国際的な協力強化をテーマに、WADAの新戦略計画が紹介され、NADO/地域アンチ・ドーピング機関 (RADO) をアンチ・ドーピングの基盤と位置付け、世界の検査の約70%を担う体制を強化する方針が示されました。さらに、RADOを通じた支援や、独立性確保の新要件 (2027年規程導入予定) について議論がなされました。

# 3 NADO STAFF EXCHANGE



## 2025年12月 中国・北京 3NADO Staff Exchange

JADA、中国NADO (CHINADA : China Anti-Doping Agency)、KADAの3機関による3NADO Staff Exchangeが実施されました。

検査領域を中心に、3機関の体制や取り組みについて意見交換が行われました。CHINADAからは年間約3万件の検体を扱う大規模体制や検査員 (DCO) 育成の仕組み、競技別リスク管理などの運用、KADAからは教育・検査を中心とした組織運営の概要が共有され、業務体制を比較する機会となりました。また、CHINADA独自のペーパーレスシステム (AIMS) の運用例や、北京WADA認定分析機関の検体管理・分析体制について説明があり、検査のデジタル化や大規模運用の実態を把握することができました。

今回の交流を通じて、各機関の検査運用の特徴や課題を共有し、相互理解を深める有意義な機会となりました。

# 83RD FIP WORLD CONGRESS OF PHARMACY AND PHARMACEUTICAL SCIENCES



2025年8月 デンマーク・コペンハーゲン

## 83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences

国際薬剤師・薬学連合（FIP: International Pharmaceutical Federation）が主催する第83回国際薬剤師・薬学連合国際会議（83rd FIP World Congress）において、薬剤師の新たな職能を検討する会議として、“スポーツファーマシスト”に関する会議が初めて開催され、JADAから職員が参加しました。

スポーツファーマシスト制度の発案・先進国として薬剤師のスポーツにおける活動に取り組んできた日本は、これまでの経験や課題を共有し、議論をリードする形で存在感を示しました。会議では新たな職能として考えるスポーツファーマシストの定義やコンピテンシーなど幅広いテーマが議論され、継続協働への期待が高まりました。

## 3.海外支援

# SEA RADO TRAIN THE TRAINER



2025年4月 タイ・バンコク

## SEA RADO Train the Trainer

東南アジア地域アンチ・ドーピング機関（SEA RADO：South East Asia Regional Anti-Doping Organization）により、DCOを育成するトレーナーの研修を目的としたTrain the Trainerセッションが開催されました。

本会議では、SEA RADO Trainersの再認定セッションが行われ、2027年に改定予定の検査に関する国際基準（IST）に関する情報が共有されました。ISTの改定内容に関する意見交換も活発に行われ、WADAへのコメント提出の重要性が確認されました。

続くTrain the Trainerセッションでは、加盟国から9名が参加し、DCO更新講習会の実施に向けたケーススタディや講習構成、実技評価方法などを学びました。積極的な議論を通じて、各国での講習体制強化が図られました。

また、JADA職員がSEA RADO Board Meetingにオブザーバーとして参加し、地域の最新情報や今後の目標を確認すると同時に、SEA RADO地域に対するJADA/日本によるこれまで約20年間の長きにわたる貢献に対し、感謝の楯を受領しました。さらに、マレーシアNADOとリスク評価や検査計画について情報交換を行い、相互の理解を深めました。



# THE WORLD GAMES 2025 CHENGDU



## 2025年8月 中国・成都 THE WORLD GAMES 2025 Chengdu

国際ワールドゲームズ協会（IWGA：International World Games Association）アンチ・ドーピング委員会（ADC）に、JADA職員が参加しました。

大会期間中、ADCはドーピング検査体制の確認、改善提案、教育活動の進捗把握などを行いました。CHINADAはDCO80名、シャペロン166名を含む大規模体制を構築し、ペーパーレスシステム（AIMS）を導入、状況に応じて紙フォームを併用する運用で検査を遂行しました。

トラブル対応や改善など、大会を通じた検査体制の運用を確認することができ、国際大会におけるアンチ・ドーピング活動の質を高めるための貴重な学びとなりました。

# TOYOTA WORLD PARA SWIMMING CHAMPIONSHIPS SINGAPORE 2025



## 2025年9月 シンガポール Toyota World Para Swimming Championships Singapore

「トヨタ世界パラ水泳選手権大会シンガポール2025」において、国際パラリンピック委員会（IPC）より招聘を受け、JADAの職員がアンチ・ドーピング活動のメンバーとして参加しました。

JADA職員は、シンガポールNADOのメンバーを中心とする DCO12名、Blood Collection Officer(BCO)1名の体制の一員として参画。7日間にわたる大会期間中、約600名の参加選手を対象とする検査業務において、IPCサポートメンバーとして検査対象選手の選定を支援しました。

本大会を通じて、IPC及びシンガポールNADOとの関係性が一層強化され、国際的なアンチ・ドーピングにおける連携の深化につながる成果となりました。



勝利を超える価値がある



私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。